

## はしがき

本年度は全教員が「一に教材，二に対応」を合言葉に，研究協議にワークショップ方式を取り入れた公開授業研究とビデオによる授業研究を通して，授業改善を図ってきました。この報告書でその取組を紹介します。

「一に教材，二に対応」の合言葉ができた経緯は次のとおりです。年度初めから授業観察を繰り返しながら，学習意欲の低い集団に対して，どのような授業が生徒を惹き付ける授業なのかを探っていると，その違いは対応の工夫ではなく，教材の工夫にあるということに気づきました。生徒を惹き付ける授業は，単に生徒の実態に合わせて工夫された補助プリントを準備するという段階に留まるのではなく，その与え方や扱い方が特に優れていました。そこで，「教材」の定義を教材そのものに「効果的な活用」を含めることとして，全員で「教材」の工夫に取り組むことを提案しました。子どもの発達段階から考えても，高等学校の授業の比重は「対応」から「教材」への段階であり，教員にとっても「教材」を工夫することの方が意欲の喚起につながる取組であると考えました。

はじめに，授業評価の観点を「教材」を重視するものに変更して，その観点に従って授業参観を行い，授業の評価をフィードバックすることにしました。

次に，公開授業研究を年間2回実施しました。その研究協議においては，横浜市教育センター\*1や岩手県立総合教育センター\*2の実践を参考にしながら，「教材」に着目した観点別マトリックスをつくるというワークショップを導入しました。完成したワークシートをご覧いただければ，授業分析とともに今後の改善点が議論された様子がよくわかると思います。

また，授業をビデオ撮影して，授業者と一緒にそれを観ながら振り返りを行うというビデオ授業研究も行いました。次年度は，ビデオ授業研究と公開授業研究をセットにした実践を行うことによって，更なる授業改善が期待できるのではないかとこの感触をつかんでいます。

今後も生徒の学習意欲を引き出す授業づくりに全教員で取り組みたいと考えています。この報告書が各学校の教育実践において多少なりとも参考になればと願っています。

平成23年2月

岡山県立岡山御津高等学校  
校長 中山 広文

\*1 「授業力向上の鍵ーワークショップ方式で授業研究を活性化！ー」

(横浜市教育センター編著：時事通信社)

\*2 「校内授業研究の進め方 ガイドブックⅠ・Ⅱ」

(岩手県立総合教育センター：<http://www1.iwate-ed.jp/tantou/kyouka/seika/jugyouken/>)

# 1 授業評価の観点と御津スタンダード

年度当初は、図1のような小倉(2006)\*1の授業評価の4観点「I教える事柄の工夫」「II効果的な授業技術」「III活動を喚起させる工夫」「IV良好な学習環境」を指標に授業観察を行った。授業を観察して、各観点についてどのような工夫がなされているかをまとめると図2のとおりである。このまとめは、同じ生徒を前にして試行錯誤しながら指導する教員の姿を、教科の枠を超えて可視化できる資料となった。観点ごとに授業を分析すると様々な工夫がなされていることがわかる。また、授業観察前に「どの観点到に重点をおいた授業か」という質問を行っており、それを集約すると4観点すべてに重点が分散していた。しかし、その中でも「I教える事柄の工夫」を重視する授業が多く、「II効果的な授業技術」も含めると、本校生徒の実態に即した授業として、多くの教員が効果的な活用までを含めた「教材」に重点をおいていることがわかる。そこで、図2の資料を授業力向上御津スタンダード作成の資料として提示し、図3のような御津スタンダード「一に教材二に対応」を提案したのである。

先生	月	日	限	授業観察における評価の観点 (本時の重点に○印)	重点	+評価	-評価
<b>I 教える事柄を工夫しているかどうか</b>							
				【I-1】 学習課題を明らかにしているか 必然性ある学習課題の提示、導入での課題づくりの工夫、まとめに於ける課題の明確化、次時への予告・課題提示など			
				【I-2】 内容の取り扱いを工夫しているか			
				【I-3】 学習方法を的確に提示しているか 全員、個別に対して学習方法を指示するなど			
				【I-4】 既習事項の定着を図っているか 前時の復習、基礎的知識・技術の確認など			
<b>II 効果的な授業技術を用いているかどうか</b>							
				【II-1】 効果的な授業形態を探っているか 効果的な実習や学習の形態、時間の使い方(無駄な時間の有無、行動の軌道など)			
				【II-2】 効果的な教材・教具・メディアを用いているか(教師の声や体や教材の使い方を含む)			
				【II-3】 生徒の学習状況を把握しているか 学習状況の的確な把握、要や難の学習状況に応じた助言・支援・配慮、机間支援など			
<b>III 生徒の活動を喚起するための工夫をしているかどうか</b>							
				【III-1】 思考を促すための支援をしているか 生徒の考えを発表させたり時味たりする工夫、集中させる工夫、思考を深める工夫など			
				【III-2】 生徒の創意や主体性を促しているか 疑問や予想をもつことを重視する姿勢や新たな発想の誘い、生徒の主体性(積極性、自主性、生徒間での意見交換)の促しなど			
				【III-3】 生徒の学習時間を保障しているか 実験、思考、作業(ノート、プリント記入)、まとめ、話し合い、発表などでの十分な時間			
<b>IV 良好な学習環境を築いているかどうか</b>							
				【IV-1】 生徒との信頼関係を築いているか 教師と生徒及び生徒間での親しさ、生徒の心構への配慮やよい関係づくりのための行為、教師の人間味ある語り方や表情など			
				【IV-2】 学級づくりができていくか 学びの姿勢、学習に積極的で協力的な雰囲気など			
				【IV-3】 学習のための環境整備が良いか 教室、野外などでの履取面の整備の工夫や安全性への配慮			

図1 授業評価の観点

授業力向上御津スタンダード作成のための資料

観 点	御津スタンダード作成のために参考となる点
<b>I 教える事柄の工夫</b> 【I-1】 学習課題の明確化 【I-2】 内容の取り扱い 【I-3】 学習方法の提示 【I-4】 既習事項の定着	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 要所での的確な指示 (めあて、ポイント、目標、目安などの提示)</li> <li>○ 教材の工夫 (興味を引く題材、工夫されたプリントなど)</li> <li>○ 生活に直結した課題設定</li> <li>○ 導入時に前時の復習を効果的に利用</li> <li>○ 作業による生徒の集中力の維持 (グラフ作成、漢字練習、ノート記録など)</li> <li>○ 活躍の場の提供 (板書、発表など)</li> <li>○ 用意周到な発問</li> <li>○ 小テストの利用</li> <li>○ 具体的操作段階への頻繁なフィードバック</li> <li>○ 予習の徹底 (点検)</li> <li>○ 自然発生的な学び合い (教え合い)</li> </ul>
<b>II 効果的な授業技術</b> 【II-1】 効果的な授業形態 【II-2】 教材・教具・メディア 【II-3】 学習状況把握	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒の集中が継続できる範囲の見極め</li> <li>○ 作業、板書、写真の利用などメリハリのある展開</li> <li>○ 机間指導と一斉学習のメリハリ</li> <li>○ 机間指導における個の学習状況に応じた適切な助言・支援</li> <li>○ 発言等を間違えた生徒へのフォロー</li> <li>○ 作業中に板書、点検など時間の有効な活用、タイミングよい机間指導</li> <li>○ わかりやすい板書</li> <li>○ 能力に応じた課題解決の指示</li> <li>○ 説明を聞く場面、作業の場面の区別</li> <li>○ 学習の習慣づけのための徹底した指導</li> <li>○ パターン化して覚えさせる指導</li> </ul>
<b>III 活動を喚起させる工夫</b> 【III-1】 思考促進の支援 【III-2】 創意・主体性の促進 【III-3】 学習時間の保障	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 雰囲気や高める発言、的確に褒める発言、生徒のプライドや心構に配慮した発言 (正解しても間違えても認められているという安心感)</li> <li>○ 作業する、板書を写す、思考する等の時間を確保</li> <li>○ ヒントや少し先のめあてとの与え方</li> <li>○ 授業スタイルを体得させるための細やかな指導</li> <li>○ 質問一少しの問い指名のタイミング</li> </ul>
<b>IV 良好な学習環境</b> 【IV-1】 信頼関係 【IV-2】 学級づくり 【IV-3】 環境整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 理解が遅い生徒への配慮</li> <li>○ 学習規律の体得 (黙)</li> <li>○ 緊張感のある口調 (凛とした態度)</li> <li>○ 粘り強い指導</li> <li>○ 人権を尊重した語り</li> <li>○ 学習に積極的な生徒の活用 (学び合い)</li> <li>○ 最初と最後の服装・態度の徹底した指導 (習慣づけの「いろは」)</li> </ul>

図2 授業観察のまとめ

御津スタンダードの提案(2010.5.31)

『この授業は、何に重点をおいていますか?』

【I 教える事柄の工夫-4】既習事項の定着...5名  
【I 教える事柄の工夫-1】学習課題の明確化...4名  
【II 効果的な授業技術-3】学習状況の把握...4名  
【III 活動を喚起させる工夫-1】思考を促す支援...4名  
【IV 良好な学習環境-1】生徒との信頼関係...4名

教科の特性もありますが、大きな4観点すべてに重点項目が分散されていることから、本校の生徒を授業に集中させ学力を伸ばすために、様々な取組をされていることがわかります。しかし、その中でも「I 教える事柄を工夫」を重点とされる先生が多く、本年度は、次のような合い言葉で授業を構成してみませんか。

## 一に教材 二に対応

「一に対応」を主張する教育学者もいますが、本校の生徒の実態を考えると『こちを向かせる』ためには、「I 教える事柄を工夫する」を優先する必要があると思いませんか。興味を示し、集中して取り組むようになると、焦らなくても必ず定着につながります。集中させるためには教材そのものの善し悪しは当然ですが、その教材の見せ方(提示の仕方)も問題になってきます。先生方の様々な工夫が周囲の先生方に紹介されたり、授業公開されたりすることを期待しています。

図3 御津スタンダードの提案

御津スタンダードを「一に教材二に対応」としたことにより、図4のような新しい授業評価の観点(御津スタンダード版)を作成した。その後はこの観点に従って、授業評価や研究協議を行っている。

教材	(教材の工夫) ○興味・関心をもたせる教材 ○疑問、驚き、感動、葛藤を生み出す教材 ○生活経験や日常の生活実態を踏まえた教材 ○補充的内容の教材 ○発展的内容の教材 ○生活に活かしてみようとする意欲をもたせる教材 ○直接関わる体験ができる教材など (効果的な活用) ○教材の提示の仕方 ○効果的な発問 ○ポイントをおさえた説明 ○学習方法など
対応	学習の準備や忘れ物への対応 指示の明確化(いつ、だれが、何を、どうする) 机間指導(適切な声かけ) つまずきの把握とそれに応じた指導 体験的活動や作業活動の意図的導入 板書の活用 誤答や不適切な発言(答え)への対応 表情や語調の意図的な変化 適切な声の大きさや速さなど
教材	+評価
教材	-評価
対応	

図4 新しい授業評価の観点

2 公開研究授業

昨年度までは、授業公開週間を設定して相互に授業観察を行っていたが、本年度は授業公開と研究協議をセットにして6月と11月に2回実施した。各教科(ただし、芸術と家庭・福祉は合同)から1講座を公開するために、該当生徒のみを残して授業を行い、他の生徒は放課として全教員で授業観察を行った。また、6限は教科ごとにワークショップ方式の研究協議を実施した。

ワークショップ方式の研究協議は、横浜市教育センター(2009)\*2の実践を参考にして実施した。この方式の手順は次のとおりである。まず、参観者は授業評価の観点(御津スタンダード版)を指標にメモを取りながら授業を参観した後、付箋に+、-評価を記入してマトリックス型のワークシート上に貼付する。次に、ファシリテーターがリードして参加者全員で付箋のグルーピングを行い、見出しや関連性を表す矢印などを書き込む。完成した後、どのような授業であったかを振り返り、各自が次の授業実践に役立てるという流れである。1回目は学習指導案を作成したが、2回目からは負担軽減のため、授業デザインシート(図5)に変更した。図6は国語(古文)の公開授業後に完成させた御津スタンダード版マトリックス型ワークシートである。すべての学習指導案(授業デザインシ

ート)及び完成したワークシートは資料編に掲載している。図7は授業評価の観点を手に、授業参観をしている様子であり、図8は参観後のワークショップ方式の研究協議を行っている様子である。

公開研究授業用「授業デザインシート」

科目・対象	教科科目名を記入 第〇学年△組(□名)を記入
授業者	氏名
題材名	題材名または単元名を記入
授業のねらい	本時のねらい・目標を記入
教材の工夫	どのような教材を準備し、それにより何をねらっているかを記入
効果的な活用	材を効果的に活用するために、どのような工夫をしているかを記入
授業の流れ	学習活動や指導上の留意点を簡潔に箇条書きで記入

図5 公開研究授業用「授業デザインシート」

国語研究協議(6月16日(水)) 3年選択古文②文系		改善策
教材	<p>(+) / (-)</p> <p>興味関心 生徒の興味を引きやすい内容 「兼家」を「兼ちゃん」にしたこと 「反語の右手先生」生徒の日常生活を取り入れる</p> <p>提示の仕方 わかりやすい工夫がなされている(文章が板書済み、色チョーク、重要語句の板書)</p> <p>授業まとめ 授業最後のまとめはgood</p> <p>知的好奇心 "色あせた菊"古今の価値観の違いについて触れていた</p> <p>補足説明・補充 並行前に発語している単語(発音後再接続)「下の句」などわかっていないので要説明 「反語の右手先生」生徒の日常生活を取り入れる 「兼家」を「兼ちゃん」にしたこと 「反語の右手先生」生徒の日常生活を取り入れる 「兼家」を「兼ちゃん」にしたこと 「反語の右手先生」生徒の日常生活を取り入れる</p> <p>板書が見やすいように整理されている 板書があらかじめ準備済でわかりやすかった</p> <p>ビジュアル化 「菊」に色を塗り、横にするなどビジュアルに板書</p>	<p>繰り返し積み上げ短時間</p> <p>ビジュアルで明確にイラストなど</p>
対応	<p>適切な声かけ 補助発問が充実している 生徒の発言への適切な声かけ(褒め言葉) 指示が明確</p> <p>音読 範読→リードして読む→練習→指名読み 音読練習時の訂正と反復 音読の声が大きい(生徒も) 音読でしっかり声を出して読んでいた</p> <p>復習 復習が全体から細部へとなっていた</p> <p>生徒の発言への対応 導入前、前時の内容は生徒にさせてもよかったのではないかと 質問に対しての答えではない場合の対応 生徒の「さみしい」というつぶやきをもっと取り上げてもよい 「兼家の対応」"みかづか"という声が上がったので、それは拾ってやってもよかったのでは?という声もあつた 「古語」移ろひ"ここでの意味の特定は生徒にさせてもよかったのではないかと"子どもの自覚性・学ぶもの真</p> <p>板書の活用 板書のスペース配分 いつも授業前に板書があるか</p> <p>メリハリ 訳と文法的な説明が同時進行であったか 訳と直訳との区別が必要</p> <p>機間指導 機間指導では何にポイントをおいているか 文法書・単語帳を出した際に読ませてみては</p>	<p>生徒の発言をどの程度ひろうか?</p> <p>毎時間の目的に応じて使い分ける</p>
その他	<p>生徒が全員教科書を持っていた</p> <p>生徒がいきいきと楽しそうに参加しているのが印象的でした。普段の授業がしのぼれます</p>	どこにポイントを当てるか?

図6 研究協議で完成したワークシート



図7 授業評価の観点をもとに授業参観



図8 ワークショップ方式の研究協議

### 3 ビデオ授業研究

9月からビデオ授業研究を始めた。これは、授業をビデオ撮りして授業者と校長がそれを観ながら研究協議を行うものである。研究協議が持てない場合は、コメントとそのコメントの根拠となる場面を編集したDVDをフィードバックすることになっている。研究協議の時間は1時間に設定しているので、単にビデオを流すだけでは協議する時間がなくなる。そこで、ビデオを撮影しているときに、+や-の評価に相当する場面についてはモニター上の時刻表示を見ながら、その時刻を書き留めておくことが重要である。研究協議ではその場面だけを取り出して協議をすれば時間短縮ができる。なお、撮影アングルは教室の後方から教員を中心にカメラを固定して撮影している。図9は授業を校長室のモニターに映し出して、それを観ながら協議をしているところである。

教材の扱い方、発問のパフォーマンスなど「教材」に関わる場面だけではなく、間の取り方、誉め方など「対応」に関わる場面についても協議ができる。

なお、「教材」に関して他の教員に参考とし

てもらいたい場面をダイジェスト版(図10)にして、校内のサーバーに保存しているので、いつでも閲覧することが可能である。お互いの工夫・改善を賞賛しあって参考にする雰囲気ができること、この取組が成果をあげたことになる。



図9 モニターを観ながら研究協議

**岡山県立岡山御津高等学校**  
Okayama Mitsui Senior High School

平成22年度  
『1に教材、2に対応』を合い言葉に授業改善実践中

→→→→→教材の工夫と授業風景紹介

- 国語辞典の活用—教科書の一文読み(現国:長谷川先生 1:44)
- プリントの工夫—まとめの工夫(日本史B:西尾先生 2:17)
- 絵の分析(世界史A:杉原先生 0:57)
- 写真の活用(世界史B:木村先生 1:24)
- 個別課題設定(柔道:佐古先生 1:02)
- 実物の利用(化学I:菊間先生 0:42)
- ワークショップ(家庭看護:野崎先生 2:04)
- 学習目標の明確化—提示・演示の工夫—教え合い(家庭基礎:野上先生 1:57)
- 黒板(白板)右側の効果的な利用—学習法の紹介(簿記:宇江先生 1:48)
- 主題に関わるアンケートの実施とその活用(現代文:犬飼先生 2:18)
- 例のおもしろさ—発問・指名の間—語調の変化(理科総合:守時先生 2:36)

図10 校内サーバーのダイジェスト版

### 4 学校訪問

本年度は、大阪府立能勢高等学校(連携型中高一貫教育校)、三重県立飯南高等学校(連携型中高一貫教育校)、愛知県立南洋高等学校(高大連携)、滋賀県立甲南高等学校(ノーマライゼーション)、京都府立南丹高等学校(アントレナーシップ)の総合学科5校を訪問した。校内で報告会を開催して情報を共有した。

#### ■引用文献

- \*1「優れた小中学校理科授業に関する授業ビデオ分析とその教員教育への適用」小倉康:国立教育政策研究所
- \*2「授業力向上の鍵—ワークショップ方式で授業研究を活性化!—」横浜市教育センター編著:時事通信社